

「ビジネスホテルとフィットネスクラブからなる複合施設」

. 設 計 条 件

この課題は、大都市の駅周辺において、ビジネスの拠点となる「ビジネスホテル」と市民の交流、健康の維持・増進を目的とする「フィットネスクラブ」からなる複合施設を計画するものである。この建物は多様化する都市機能を豊かなものとするため、2階において駅と連絡するペDESTリアンデッキ(駅前広場)からもアクセスできるようにし、駅前空中広場と一体的な計画とすると共に、高齢者・障害者等の利用に配慮した計画(ノーマライゼーション)とする。計画に当たっては、特に次のことが求められる。

ホテル部門、フィットネスクラブ部門及び共用部門の異なる機能を適切にゾーニングした計画とすると共に、各部門の動線に配慮した計画とする。
駅周辺の交通状況を勘案すると共に、まちなみに配慮した計画とする。
建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画する。
建築物の環境負荷低減に配慮した計画とする。

1. 敷地および周辺条件

(1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は下図のとおりである。

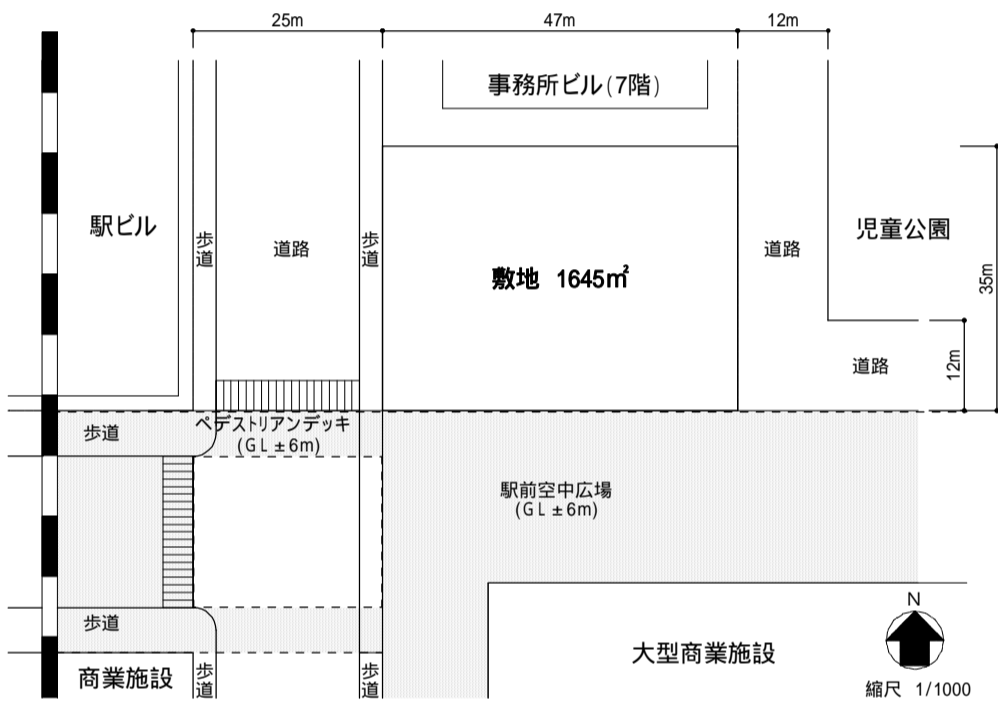
北側:事務所ビル(7階)がある。

東側:道路を(幅員12m)挟んで児童公園がある。

南側:大型商業施設がある。上部に駅に接続するペDESTリアンデッキがあり、駅前空中広場(GL+6m)がある。

西側:道路(幅員25m)を挟んで駅がある。

- (2) 道路と敷地との高低差はないものとする。歩道の切開きは、1箇所あたり6mまでできる。
(3) 敷地は商業地域および防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は90%、容積率の限度は500%である。なお、日影について特別の配慮はしなくてよい。
(4) 電気・ガスおよび上下水道は、完備している。
(5) 地盤は良好である。
(6) 気候は温暖で積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



(注1) はペDESTリアンデッキを示す。

(注2) この課題においてペDESTリアンデッキは、避難階とみなす。

2. 建築物

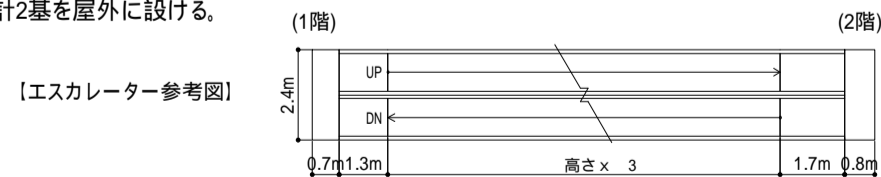
- (1) ラーメン構造による鉄筋コンクリート造とし、一部他の構造種別を併用してもよいものとする。ただし、その場合は「-2.計画の要点等」の「構造計画について、配慮したこと」にその理由を記入する。
(2) 地下1階・地上7階建ての1棟の建築物とし、地下1階を除く床面積の合計は、6000m²以下とする。床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しない。
(3) 構造計画については、1・2階部分と3～7階部分が、構造的に整合性のある計画とする。
(4) 設備については、次のとおりとする。

衛生設備、電気設備、空調設備については、適切に計画する。

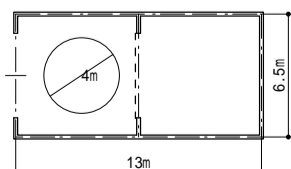
エレベーターは、ビジネスホテル部門に利用者用×2基(2～7階)・サービス用×1基(1～7階)、フィットネスクラブ部門に利用者用×1基(1～2階)、共用部門(エントランスホール)に×1基(1～2階)を設ける。

3. その他の屋外施設等

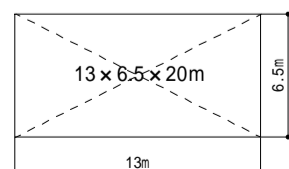
- (1) カフェに「テラス」(100m²以上)を設け、駅前空中広場との繋がりを考慮し、一体的なアメニティ空間を創造する。いす・テーブルをレイアウトする。ペDESTリアンデッキとの間は、EXP.Jで接続する。
(2) エスカレーターを上昇用・下昇用×それぞれ1基(一基あたり幅1200mm(800型) 勾配30度)計2基を屋外に設ける。



- (3) 駐車場は、利用者用:機械式×30台、車いす用として地上に1台、サービス用:地上に2台を設ける。の機械式駐車場はタワーパーキングとする。但し、この課題においてを計画する必要はなく、エントランスホール(1)へ直接アプローチできる出入口と設置範囲を示すのみで良い。



【参考図】タワーパーキング(ターンテーブル付)
出入口は短辺、長辺どちらでも良い。



【表記例】

- (4) 駐輪場は、利用者用として50台分を設ける。その際、まちなみに配慮すること。
(5) ごみ置場(約10m²)を設ける。
(6) 「その他の屋外施設等」は床面積に算入しないものとする。

4. 所要室

下表の室は、全て計画する。なお、地階の電気・機械室は計画しなくて良い。

| 部門 | 室名 | 床面積 | 設置階 | 特記事項 | |
|--------------------|---|-----------------------------------|-------------|---|-------------------------|
| ビジネスホテル部門 | ・利用時間は24時間とする。 ・リネン庫、自販機コーナーを各階に設ける。 ・宿泊室は間口6.5m以上とし、各室にユニットバス・便所・PSを設ける。 | | | | |
| | 宿泊室 | シングル(約15m²) | 約900m² | 3階～7階 | ・各階に12室、計60室設ける。 |
| | | ツイン室(約24m²) | 約1200m² | | ・各階に10室、計50室設ける。 |
| | | ダブル室(約50m²) | 約250m² | | ・各階に1室、計5室設ける。車いす仕様とする。 |
| | ホテルロビー | 適宜 | 2階 | ・エントランス(2)からアプローチする。 ・ラウンジ、PCコーナー、ソファを設ける。 | |
| | フロント | 約25m² | 2階 | ・受付カウンター、クロックを設ける。 | |
| | 貸会議室 | 約40m² | 2階 | ・ホテルロビーから出入りする。 | |
| | 従業員控室 | 適宜 | 1階 | ・男女別に設ける。 | |
| 荷解きスペース | 適宜 | 1階 | ・管理動線に配慮する。 | | |
| フィットネスクラブ部門 | ・利用時間は、午前10時～午後10時までとする。 ・フィットネスクラブ部門は上履き又は裸足で利用する。 | | | | |
| | プール室 | 約300m² | 1階又は2階 | ・プール(15×8m 深さ1.2m)を設ける。 ・受付、監視室を設ける。 ・ジャグジー(3m)を設置する。 | |
| | ロッカールーム | 約200m² | | ・プール室に直接行来できるようにする。 ・ロッカー、洗面所、便所、シャワーブース、足洗場を設ける。 | |
| | マシンルーム | 約200m² | | ・受付を設け、トレーニングマシンの設置範囲を明示する。 | |
| | ヨガスタジオ | 約60m² | | ・壁(一面)に鏡を設ける。 | |
| | エアロビクススタジオ | 約70m² | | ・壁(一面)に鏡を設ける。 | |
| | ヒーリングルーム | 約40m² | | ・ボディソニックチェアを採用する。 | |
| | ロビー | 適宜 | | ・くつ箱、プロショップコーナー、ソファをも設ける。 ・上下足の履替ラインを明示する。 | |
| フィットネス受付 | 約25m² | ・カウンターを設ける。 ・スタッフルームとの動線に配慮する。 | | | |
| スタッフルーム | 適宜 | ・男女別に設ける。 | | | |
| 共用部門 | エントランスホール(1) | 適宜 | 1階 | ・風除室を設ける。 ・タワーパーキングとの出入口を設ける。 | |
| | エントランスホール(2) | 適宜 | 2階 | ・ペDESTリアンデッキからアプローチし、風除室を設ける。 ・エスカレーターとの動線に配慮する。 | |
| | カフェ | 約150m² | 2階 | ・エントランスホール(2)からアプローチする。 ・テラスを設け、オープンカフェとして利用する。外部からも出入りできるようにする。 ・ビジネスホテルの朝食サービスにも利用する。 | |
| | 守衛室 | 適宜 | 1階 | ・タワーパーキングとの動線に配慮する。 | |
| | 電気・機械室 | 約250m² | 地下1階 | ・地下1階に設け、ドライエリアを付設する。 ・プール室の機械室を兼ねる。 | |
| ・便所、倉庫については適切に設ける。 | | | | | |

(注)上記の床面積の合計(地下1階及び適宜を除く)は、約3,460m²となる。

. 要求図面等

設計製図答案用紙の定められた枠内(寸法線は枠外でもよい)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

| 部門 | 特記事項 |
|-------------------------|---|
| (1) 1階平面図兼配置図 1/200 | 建築物の主要寸法(柱割および床面積の計算に必要な程度)を記入する。 室名等を記入する。 設備用シャフトの位置を明示し、それぞれ必要に応じて DS、PS、EPSと記入する。 建築物の出入口及び断面図の切断位置 タワーパーキング位置、及びエスカレーター位置 1階平面図兼配置図には、次のものを図示する。 イ. 地下1階(電気・機械室)の位置及び床面積 ロ. 駐車場台数、出入口(タワーパーキングの台数も含める) ハ. 駐輪場台数、出入口 ニ. ドライエリア、ごみ置場、通路、植栽等 2階平面図には、次のものを図示する。 イ. テラス(面積を記入し、テーブル、いす等を図示する。) ロ. エキスパンションジョイントの位置を一点鎖線で明示し、Exp.Jと記入する。 貸会議室、プール室、ロッカールーム、マシンルーム、ヨガスタジオ、ヒーリングルーム、エアロビクススタジオ、カフェの床面積を記入する。 客室については、次のものを図示する。 イ. 代表的な室の室内プラン及びその床面積。 シングルは(S1～S12)、ツインは(T1～T10)、ダブルは(D)と表示する。 ロ. 各客室の出入口、設備シャフト 基準階平面図は3階とする。 直下階の屋根、ひさし等となる部分を図示する。 |
| (2) 2階平面図 1/200 | |
| (3) 基準階平面図 (3～7階) 1/200 | |
| (4) 断面図 1/200 | 切断位置は、プール室を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高、室名及び主要寸法(柱割)を記入する。 梁及びスラブの断面を図示する。なお、基礎については図示しなくてよい。 |

2. 計画の要点等

次の～について、計画の要点等を記述する(別紙)。

なお、要求図面に該当箇所があれば、引出し線等により補足し明示する。

建築計画-1(配置計画、ゾーニング、動線等)について、配慮した事

建築計画-2(まちなみ、ノーマライゼーション、環境負荷低減等)について、配慮した事

構造計画(構造種別、架構形式、構造上の特徴等)について、配慮した事

設備計画(衛生、電気、空調(採用した空調方式とその理由))について、配慮した事

3. 面積表

地上1～7階の各階床面積と算定式、及びその合計を記入する。